



令和4年度 PDA熊本高校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2023年2月18日(土) 09:15-15:30

会場：オンライン (Zoom)

参加校：8校、18チーム (熊本県立済々黌高等学校、熊本県立熊本高等学校、
熊本県立熊本第二高等学校、熊本県立東稜高等学校、熊本県立八代高等学校、
熊本県立水俣高等学校、熊本県立熊本商業高等学校、熊本県立天草工業高等学校)

参加者：生徒66名、教員15名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、九州大学



開会式では、熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校教育指導班の松田圭志先生より、「国籍を超えた中での学習や仕事は身近になり、日常的になります。国籍も多様になります。他人事だと思ったり、議論を避けたりせず、自分たちの未来は自分たちで決めることが重要です。そのためにも答えがない課題についてより正しい答えを考える力が必要になります。この交流大会をその力を身につけるための良い機会にしてください。」と台湾の半導体製造会社 TSMC が熊本に工場を設立する背景を紹介しながらご挨拶いただきました。次に、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事中川智皓より、「自分の考えたことがどの程度にジャッジに伝わるのか、どのような返答が返ってくるのかという生の経験は、最近話題の ChatGPT などからは得られない経験です。ぜひ議論を通した対話を楽しんでください。」と激励のメッセージが送られました。そして、参加校の紹介やジャッジの紹介、POI(Point of Information)の練習が行われました。



高校教育課 松田先生ご挨拶

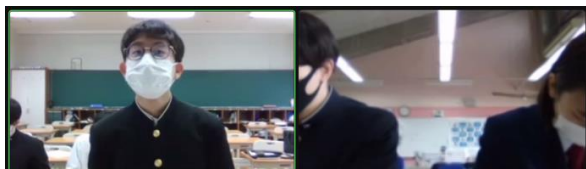


PDA 代表理事 中川智皓より挨拶

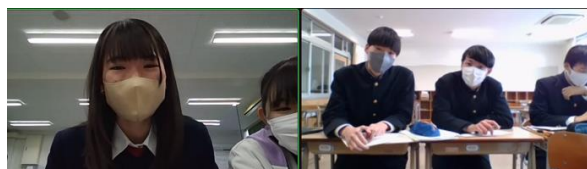


POI の練習

まずは練習ラウンドです。論題は「*Students should be allowed to work on different materials during class.* (生徒は、授業中に別の作業 (内職) することを許されるべきだ。)」でした。授業内容をすでに理解しているから内職をした方が成績にとって良いと主張する肯定側に対し、否定側は授業内容を理解していない可能性があり、先生の説明を聞き逃してしまうのは問題だと主張しました。ディベート後はエアークラッシュを交わし、お互いの健闘をたたえ合い、ジャッジのコメントを待つ間、学校の勉強のことや部活のことについて話し、交流を深めました。



スピーチの様子(熊本 C VS 東稜 A)



交流の様子(熊本 A VS 熊商 B)



ディベート後のエアークラッシュ(熊商 A VS 済々黌 A)

第1ラウンドのお題は「*Government should restrict the time spent on online games.* (国は、(PC およびスマホの) オンラインゲームの利用時間を規制すべきである。)」でした。肯定側はオンラインゲームの中毒性について言及し、否定側はeスポーツなどを例に挙げ、オンラインゲームによる夢の実現などについて言及しました。今大会では教員がジャッジを務め、ディベート後、勝敗や個人コメントなどのフィードバックを行いました。



POIの質疑応答中(東稜 A VS 済々黌 A) POIにチャレンジ!(熊商 B VS 済々黌 B)



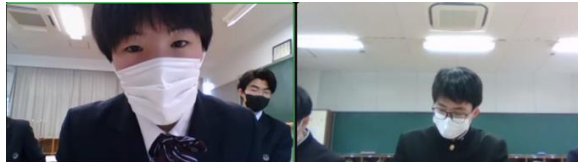
ディベート後の交流(八代 B VS 熊本 D)

ジャッジの教員によるフィードバック
(水俣 B VS 熊本 E)

続く第2ラウンドのお題は、「**We should make it mandatory for elderly citizens to return their driver's license. (高齢者に運転免許証の返納を義務化すべきである。)**」でした。高齢者による事故が多いという主張に対し、高齢者の人口が多いから事故が多いのであって、割合としては問題ないと鋭く指摘したり、これまで見聞きしたニュースなどを引用し、若者の事故の方が多いと主張したりする場面も見られました。POIにも積極的にチャレンジするテーブルもありました。



ディベートの様子(熊本C VS 熊本第二)



ディベートの様子(水俣A VS 熊本D)



ディベートの様子(天草工業A VS 熊商B)



POI! (東稜B VS 八代A)



アイコンタクトをしてスピーチ(済々黌B VS 熊本B) (水俣B VS 熊本A)

そしてジャッジが高く評価した生徒6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「**Grade-skipping should be introduced in compulsory education. (義務教育での飛び級を導入すべきである。)**」でした。人生のスタートを早く切ることの重要性や経済的なメリットについて主張する肯定側に対し、否定側は学力面だけでなく、精神面の成長にも言及しました。POIも飛び交い白熱したディベートとなりましたが、見学していた生徒とメインジャッジを務めた教員の投票により否定側の勝ちとなりました。エキシビションディベートでのジャッジは実技試験も兼ねており、ジャッジとして参加した教員はそれぞれ自身の見解をまとめました。



エキシビションディベートでもPOI! ジャッジ実技試験・ジャッジコメント

閉会式では、エキシビジョンディベータ賞、チーム賞、個人賞の表彰を行いました。最後に熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高校教育指導班の松田圭志先生よりご講評をいただきました。ディベート後、ジャッジのコメントを待っている間の交流にも言及され、「お互いにどのようにしてディベートや英語の力を伸ばしているのか情報交換したり、交流したりしている姿が印象的でした。皆さんが切磋琢磨して英語を勉強していることを知ることができました。」とコメントしました。最後に全員で自身に労いの意味を込めて拍手をし、令和4年度の熊本高校即興型英語ディベート交流大会が終了しました。



高校教育課 松田先生ご講評

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- ・PM _____さん (熊本商業高校)
- ・LO _____さん (熊本第二高校)
- ・MG _____さん (熊本高校)
- ・MO _____さん (熊本高校)
- ・LOR _____さん (東稜高校)
- ・PMR _____さん (済々黌高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 熊本県立熊本高等学校 A
- 2位 熊本県立熊本高等学校 B
- 3位 熊本県立熊本高等学校 C
- 4位 熊本県立済々黌高等学校 A
- 5位 熊本県立八代高等学校 A



1位 熊本高校 A



2位 熊本高校 B



3位 熊本高校 C



4位 済々黌高校 A



5位 八代高校 A

〈ベストディベーター賞〉

- _____さん (熊本 C)
- _____さん (熊商 A)
- _____さん (済々黌 A)
- _____さん (済々黌 B)
- _____さん (熊本 A)
- _____さん (熊本 A)
- _____さん (熊本 B)
- _____さん (熊本 D)
- _____さん (東稜 A)
- _____さん (東稜 B)
- _____さん (八代 B)
- _____さん (水俣 A)
- _____さん (水俣 B)
- _____さん (熊商 B)
- _____さん (天草工業 A)
- _____さん (天草工業 B)
- _____さん (八代 A)



ベストディベーター賞

〈POI 賞〉

- _____さん (熊本 C)
- _____さん (済々黌 A)
- _____さん (済々黌 B)
- _____さん (熊本 A)
- _____さん (熊本 A)
- _____さん (熊本 B)
- _____さん (熊本 C)
- _____さん (熊本 D)
- _____さん (東稜 A)
- _____さん (東稜 B)
- _____さん (八代 B)
- _____さん (水俣 B)
- _____さん (熊商 A)
- _____さん (天草工業 B)



ベスト POI 賞

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・とても楽しくて、上手な人を見ることも出来て、勉強になりました 来年もまた参加をしたいなと思いました。(水俣高校)
- ・貴重な体験ができて楽しかった。また来年も挑戦したい。(水俣高校)
- ・なかなか言いたいことを英語にすることが難しく、POIに対しても上手い返答が出来ませんでした。自分で考えて伝える力を身につけることができたと思います。(熊本商業高校)
- ・最後のエキシビジョンディベートがとてもレベルが高くて僕もこんな風になりたいとおもえました。(熊本商業高校)
- ・もっとたくさんのお題についてディベートをしたいと思いました。(熊本第二高校)
- ・臨機応変さが求められる機会を得たことが自分にとってかなり、有益だったと思いました。自分の英語能力に磨きをかける意味でも重要な機会だったと思いました。(熊本第二高校)
- ・英語で論を展開していくのがとても上手いと思い、これから、英語を頑張っていきたいなと思いました。(天草工業高校)
- ・一つ一つの対戦もエキシビジョンマッチもレベルがとても高くとても面白かったです。もっと色々な人にやってもらいたいと思いました。(済々黌高校)
- ・大会を通して他の学校とたくさんの交流ができたことや、他人と連携して自分たちの意見を発表していくことで人間的に成長できた気がした。(済々黌高校)
- ・短時間でチームメートとあらゆる意見を出してディベートしていくのがとてもやりがいがあった。(熊本高校)
- ・英語をきちんとと言えるかだけではなく、ジャッジを説得出来ないといけないことが、難しかったです。あと、チームで協力して、筋の通った論を展開しないところが課題なので、これから伸ばしていきたいです。今回、議論する楽しさが分かったので、自分で何かのトピックに対しての意見を自分で言ってみる練習をしてみようかなと思いました。(熊本高校)
- ・楽しかったです！ありがとうございました。(熊本高校)
- ・ディベートをすることでメンバーとも仲良くなれたしお互いに意見を出し合って論題について考えることがとても楽しかった。また、ディベートが終わった後に戦った相手の高校とお話をする機会もあって色々な高校について知れた。(八代高校)
- ・今回は初めての交流大会だったため、練習ディベートのときにすごく緊張しましたが、試合を重ねていくことに、その緊張が解消されました。日常生活中で他校との交流もあまりないので、楽しく交流ができてとても良かったです。流暢な人のスピーチを聞いていて、自分もそうなりたいと強く思いました。また、先生方から個人的なアドバイスをもらえたこともすごく良かったです。これからのディベートに、生かしていきたいと思いました。(八代高校)
- ・他校の方々と交流できて、また、客観的な意見をいただけるとても貴重な経験となりました。そして、エキシビジョンディベーターの方々の活発な意見交換を聞くことができ、客観的に話し合いを俯瞰することができた。それらを参考に、今後の目標を立て、来年度もまた大会に参加したいと思った。今後は、表現力など伝え方に工夫をして、さらに良い議論を提示していきたい。(八代高

校)

- ・他校の人たちと交流できて楽しかったです。エキシビジョンディベートでは、みんな上手ですごくレベルの高いものを見ることができて勉強になりました。わたしも選ばれた人達のように上手にディベートできるようになりたいです。(東稜高校)
- ・聞き取れても反論や意見などをすぐに英語にするのが難しくて戸惑ったこともたくさんあったけどやりきれてよかったです。(東稜高校)
- ・非常によい経験をさせていただきました。ディベートは慣れるまでタフですが、自分の力が鍛えられているのを実感します。また同じチームになった人はもとより、対戦相手とも一体感を感じることができのいいですね。(教員)
- ・人の話を神経を尖らせて真剣に聞くことで、自分のためになった。(教員)
- ・生徒が協力して頑張っており、負けて悔しがる姿も頼もしく感じた。(教員)
- ・上述のとおりです。まだあまりディベートに慣れていないであろう生徒たちも、かなり高いスキルを持っている生徒たちも、色々な学校の生徒たちと交流することで、学ぶことがおおくあったのではないかと思います。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。自分自身のジャッジとしてのスキルはこれからも磨き続けなければならないと感じました。(教員)
- ・もっと多くの学校が参加してくれればいいなあと思いました。英語がたどたどしくても、「なんとか伝わった」という経験をさせたいです。(教員)
- ・生徒が素晴らしいと思った。(教員)